

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9

文庫20
392
2

修物語 十一



伊勢物語下

福田

(完) むす。男いりうとのとおげおちをやんとうて
うらみゆびよやあまとのひそんかとくそふ
や。きこえり。うへ

(平) めのうが、めじまとひそんをうあくわをひくうね
むす。れどこありうり。うへむしをうみく
とせとせばづとをひめもむねをれすのうへ
とづくられべ

あきほゆまくのうてとまがだほけ世とみとくぎ
まことこ
か風あざれ様ちがよもかきのがいにあら
又女へ



りやうれしくうらはうかにやくみをとまつて
まこととこ

ゆあとするよりひとちるをとづねまでかくいん

あくべがみよまう男女の心ひあきまほすあくべ

至むくもく人のせんざい。まくらぐくらみ

うへへはねうれまくらをちわねうへへはね
うへへはねうれまくらをちわねうへへはね

とくべきだをうんやうけ

至し。男あひぐに女にあひて物産するやくらのまき

いぞうのあくべとあれどなりよんはまごとあくべ

至むく。おとづまふうもけよ。ひやうけ

ひやうねやうらとたうくわとまよあまくわうね

至むく。あとひうけよ。女のえうす。うぢうぢうてのよ

至むじよ。あせらひよ。あせらひよ。あせらひよ。あせらひよ

ワ。袖へまのひうにあねどもうれめのやうひう

至首。れとく。まきぬおよひう。づれうとくのりよ

うひうねあまのうよ。あよ。あよ。あよ。あよ。あよ。あよ。

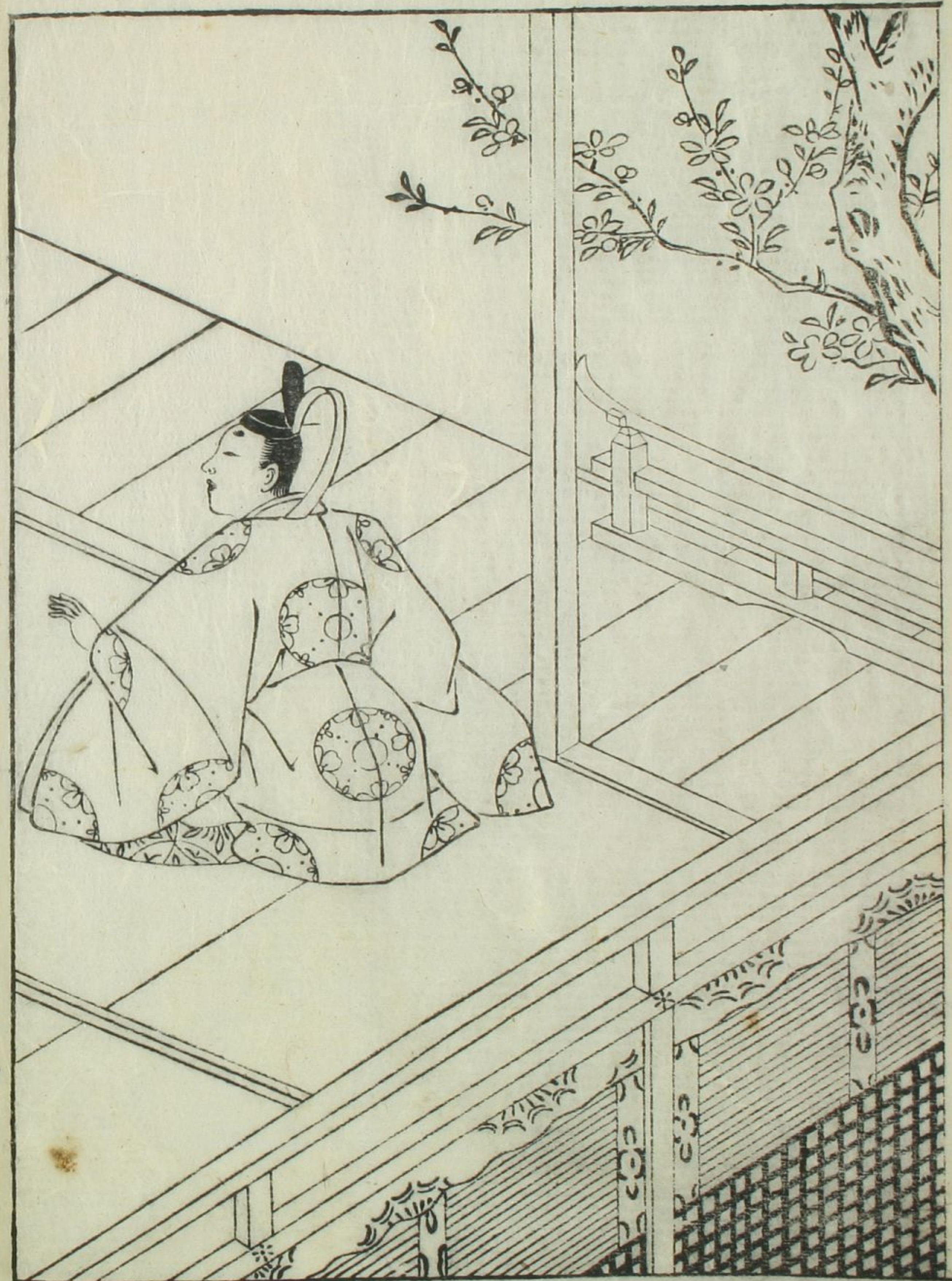
至ひ。がつきそ。まごのとがく。まくら。まくら。まくら。まくら。

あくべやと。あくべと。け男のあくべ。うみ。うみ。うみ。うみ。

あなうと。あれと。と。け男のあくべ。うみ。うみ。うみ。うみ。

やらひ。げも。はつまきゆ。きく。されば。おのとく。

ひづちひてあれ。うる。うれれ。かに。おとせ。おとせ。



とそきんかく。うりつけ。ば女とも。うひのうえといひを
もらひ。おひやとまきまを。ば我。口ついた。ほしゆと
ひづ。男。家とひづ。おひづひづ。すまと。おひづ
すま。びぬく。かきうと。おきを。かくき。き常。おきえん
かく。て。おひづ。も。あひづ。おひづ。おひづ。おひづ。
ひづ。よ。おひづ。おひづ。おひづ。おひづ。おひづ。おひづ。
とき。おひづ。いきせき。おひづ。

辛 者。男有きり。まほらひそかうへ。もとあわたまづり
ほの。つゞじすめかどくそよつきて。人乃あつひよさう。ば男
うきの隠ひそつきけふ。あつまのまくはせん人の。やうそえ
みとよそ女あす。にうけとせよ。ちどりのまよ。とくとくれ
がくけを。せうを。ざくざく。がくけふ。あもしれをとくとく
さきまつる。もれの。然け。もしれの。ゆく。の。ゆく。

とひきうれぞ。さひやあまたあて。ひよのくそあうけ。
空ひゆく。男はくまぞいきうちをま。これひちもこのむを
ひよすまきとめひとすみれのひらうひが人のひくをきと
おきうめのひをひくわせりそぐくちよきよきのあさん

は後
ああ。おれがおだてた方。おきなわちの波のねじがねやうと
空^{アモリ}音^{ヨウ}。さうをとづけ。女。お前^{ミサカ}やあさうさん。
さうかんのふはせられて。人の圍^{イニシ}たりけり。よつうれて。さと
うかまく。おひでゆる。おぐまをたどり。よさうるみえ
えとおぐにゆる。をれやう。男まれをあくまえ
いよのゆめひらげ。ひるぎゆめ。とめくにゆく
と。よと。と。もやくともやく。さくと。さくと
もやくともやく。



この我よあひをのぞれつ年月あれどもまづやうき
と。ひてかねぬをやせされど。見ておまくじらむとある
辛三 む。せざるはうせ。づでをあみけあん男ふ。あひえ
て。うまとそくとひゆもたとうすまに。御さんねゆちう
とき。ふくとよひてかづく。まうせふうまけちくい
らへてやま。まづまうがうすんよじれ男そわそん
あひすまげ女けしきひとよ。あくへりとあまけは。
いそじゆくこゆねよあひやそしうあととふるあり。移
あきけふびさあひのそだうそるのくらとおそ。わく
えんよともひれば。あれううてまく移す。おのち男え
きうけは。女男のひよひよとひよひよと。男不のうえ
りとせよひくをすぬはりひよとひよとしがほる
と。おうけきよとて。むづくわくらひうきて。お

きそりあき。男の女め
せんじやうじゆ

さもひきとまくはあらその色
と徳と勇あれとゆきとを教訓す。世の中はうるさいで。
すとひかひ。おやかみとがりねやどじへだよとるがる
とく。けらめくとあわくとあらうとく

け。と。ば。女。ひ。と。か。く。か。う。り。お。も。わ。か。び。う。ん。ぐ。か。や。ま。と。の。金。と。
お。ち。き。と。よ。ま。す。お。か。と。そ。ま。け。よ。う。あ。よ。う。ば。ち。と。あ。よ。ば。あ。と
と。と。ひ。て。ば。じ。に。あ。う。と。も。金。と。の。じ。み。ば。じ。に。つ。の。ア。ス。と。も。ま
で。の。や。う。わ。れ。ば。女。と。ひ。ま。と。と。ち。と。く。ゆ。と。さ。れ。う。ま。と。の。よ。れ
あ。と。と。と。ひ。て。い。き。か。と。ひ。え。ば。ア。マ。キ。カ。と。と。ま。の。く。わ。ば。と。あ
て。と。と。も。づ。き。の。ア。ク。と。と。く。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
ク。と。
と。
と。
佛。と。あ。も。レ。け。と。ど。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
と。
と。
と。

あひやんとおはなよやくとおはなけん

ひみと。かうちよりおうゆで。やまけのゆゑをひる
ひる。ほこきとたまて。ゆゑをみて。女へゆくかき
き。かうもはまくです。せはかくめさる。じ
男はやざれて。とくらんぢる。かまやざみどきあ
やはけて。じ男とあらうして。されば。じ女のひとみゆき
ふまとぬうでさせ。うれこやそあくうきされふくうえす
あゆのうゆをもしまたのれ。やねをあそぶぬせ。がくじ
とあきそれば。じがことくれ。よりおあきつ。まえととあ
あくふきて。おれが引て。あらゆるひよ。せんげ女がく
うりうりおもひ。あかとすと。うひよ。きゆあそき
うとわと。あくもあくねをあそびて

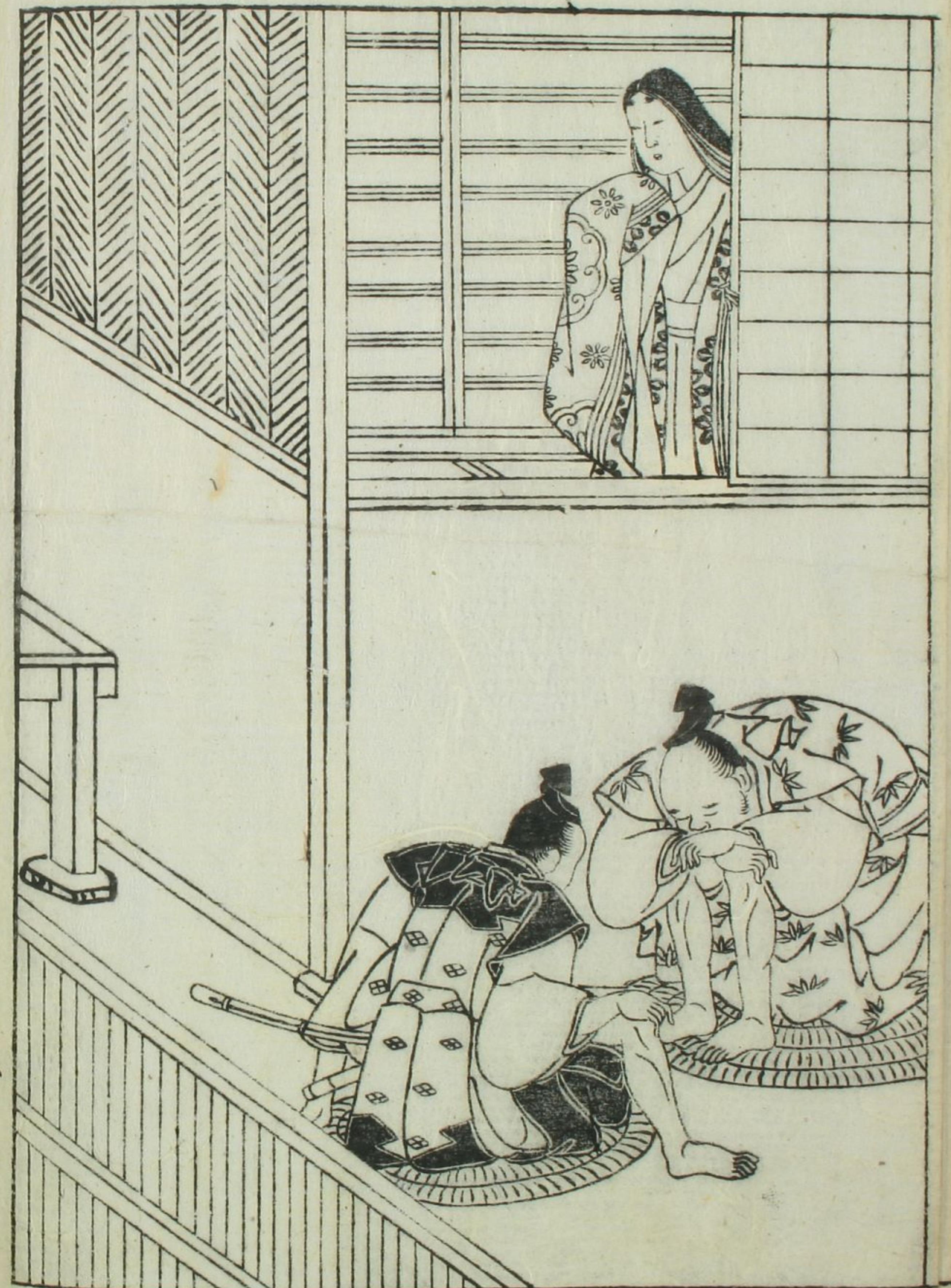
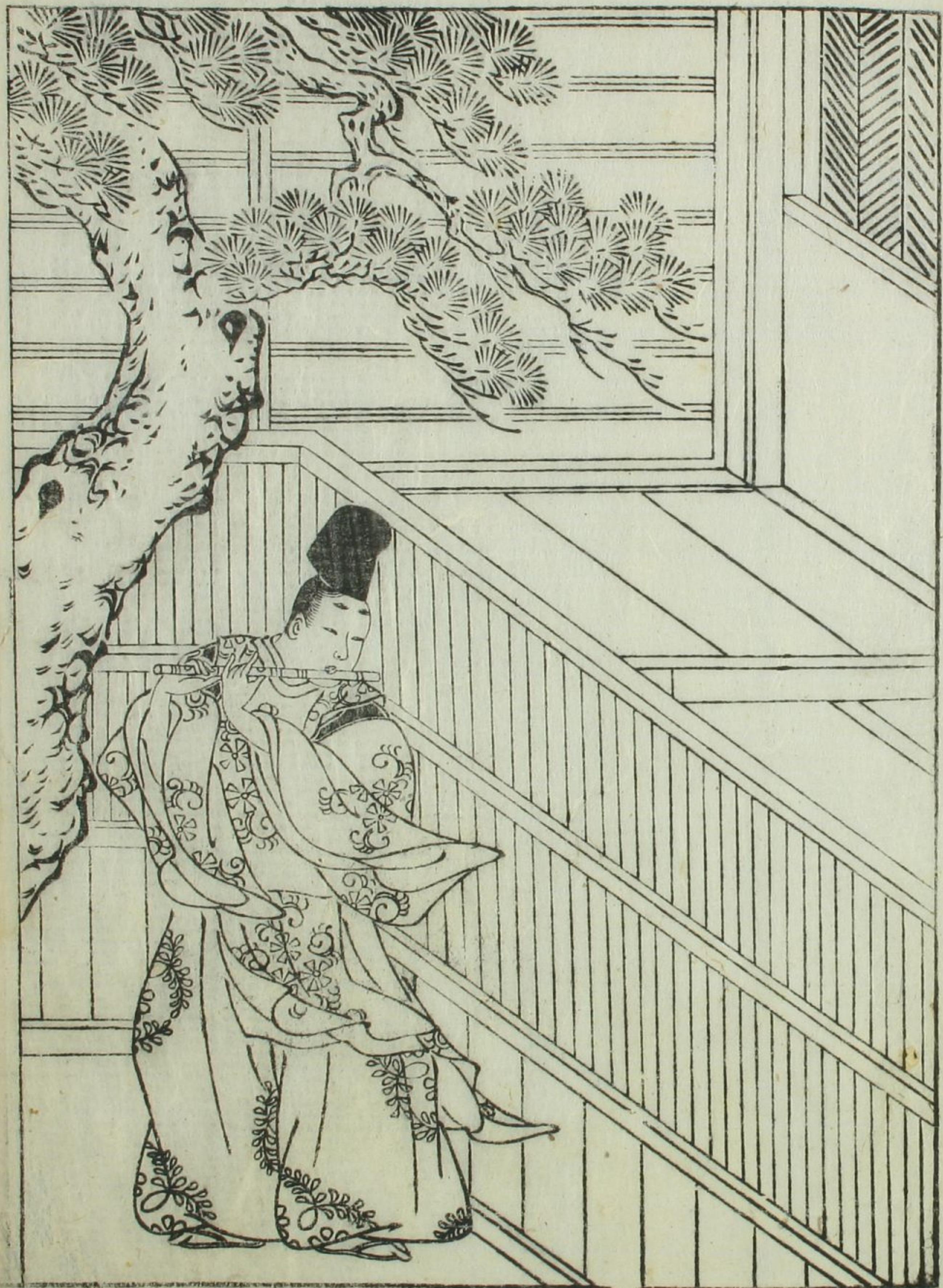
辛七 菊男。やくをしゆ。とよどらきうつ種。ひの園。
おがくわい。おうり。がちのくふくのとをえれば。は
れききわきやまびか。かくすもじりくわく。あ
まのまみうきう。うねとみく。せのゆとくすく。てひ
きのよきくのくわく。くわくめもとくとくとく
辛 菊男。づくの園。ひきうすよせかく。おのまよ

源と源よつともうれびをうなづゆ。そしに源源とよあとゆ
をうきて薺の花さくれあれどまきのうかくよまく

とよかうけとひづかくよ海とあらねきり

李先芳。男をうらう。まも男ひせの園よ。がのつみひよ。まも女
の秋えきすけりのわ。たのつみひよりひじとくいは。まも
やれうけも。もやのこと成されば。とやんざらよ。すけり。禁
がりみどじくとくすけり。ほきうりはうてつ。そどにどきせきり。
ねくちよづきうり。二句とくよ。男えれとありとくよ。女も
もくとありとくよ。わがくじくとく。とくもどくとく。男えればえあだつひ
されとありとくれば。とくもやどくとく。女の種もきくとくされ。
女人とまつて。ねひとく。よ。男の力もあううう。男はく種
をさうされど。のうとくとく。とく。まよ。月のねうとく。ちい
さうとくとく。ぐたう。男はく種もくとく。ぐたう。

西まゆゑの。種もとよひまくまで有ます。まくあらぐ
やうへぬよ。うりにそり。男はとくとくて。種もとよひまく
いふ。已されど。我人とすくとく。わねぐらかせちて。ぬ
きれが。がくをきれて。あく。きに安の所より。泊りきて
るやうされやがえんむりをゆあうは。まく種もとよ
ひとくとく。うれて。よか



からくのまわらぬかうみ　あきびとゆくすゑ色。
さのまづぐれむれちよ。ほわねのすゑとゆくすゑ。

から人のまゝれとめれゆかうえみ
のまゝれとめれゆかうえみ
のまゝれとめれゆかうえみ

のとおもてたまひ色。
ものすゑをゆく。

とて。あくまでさうれ聞きよろり。歎息へわの尾の附け
えは。まゆのひも。あれゆうのみと乃ひかせ
辛ひく。おこひのつひひまう。わうよ。

て。あくまどうは國へまへよき
徳をもつて。されぬのみ
也。おとこ。のつひいよりく

まよひうきは
アラカリカモハズコモ
主ひ。男。の氣。す。内乃れはひよそまの氣。れが。
あま。す。れざとひよそ。女。

うりよやうりて。うきの家乃口
アリありやあづとぞ年片て
ひ。男ひせの氣まよ門乃れは
す。すれざとゆひよ。女

2. よ。ひ。う。ま。く。は。
せ。き。よ。う。ま。く。ぬ。な。
い。え。ま。ま。う。れ。が。

女
あやめのねうつもあきらめのまううちがあれ
吉三者そぞくへ育とすとせきそくあふるもあめ安のあきらめを今
めみやえよめとれぬ月のくらむうのあとせきあたそきり
む。あとこ。女をひらみく

わがよのねうもあきらめ
若そひくすとせきをまつる
めみやうとせれぬ月のうち
も。あとこ。女をひき

てのまゝアラカツル
あぬ安のあくわとを今
のまとせられでまく

ま
むく。男のあわぬいきてあれどひきせん
おやよどりのとあるもあててあるをかねる
とづいてまくしてはくとかうけども

うるさいからあらあらあらわらわらわら
も。男の女のまめに見てある
やうのと角はあたててあるが
ひいてまきてはまとかうけとが。

日暮にかくらむあう那
うとうとゆめべ女
さうじゆねみかねと
ま

被われてあまねくわまとひるみアラトあるうそやまんとす
女じよをめようかすらアラトあまのまちうひゆうをえ
あさみだらぞめられてあまくせの人にほきはきくわへ神のあまく
くわあよかとひづれ。ゆくけん
志。著二条のあまくわ。まくわ。春まのあまくわとトもよふ。

神られてあまめりやまとへる
ひよしゆうおうアラムヘリ
がまくでわれてあらせの内は
あきとゆゑ。ゆけ
首。一条のあらわゆる。また春の

とあります。まことに
おまかせ申す。おまかせ申す。
おまかせ申す。おまかせ申す。
おまかせ申す。おまかせ申す。

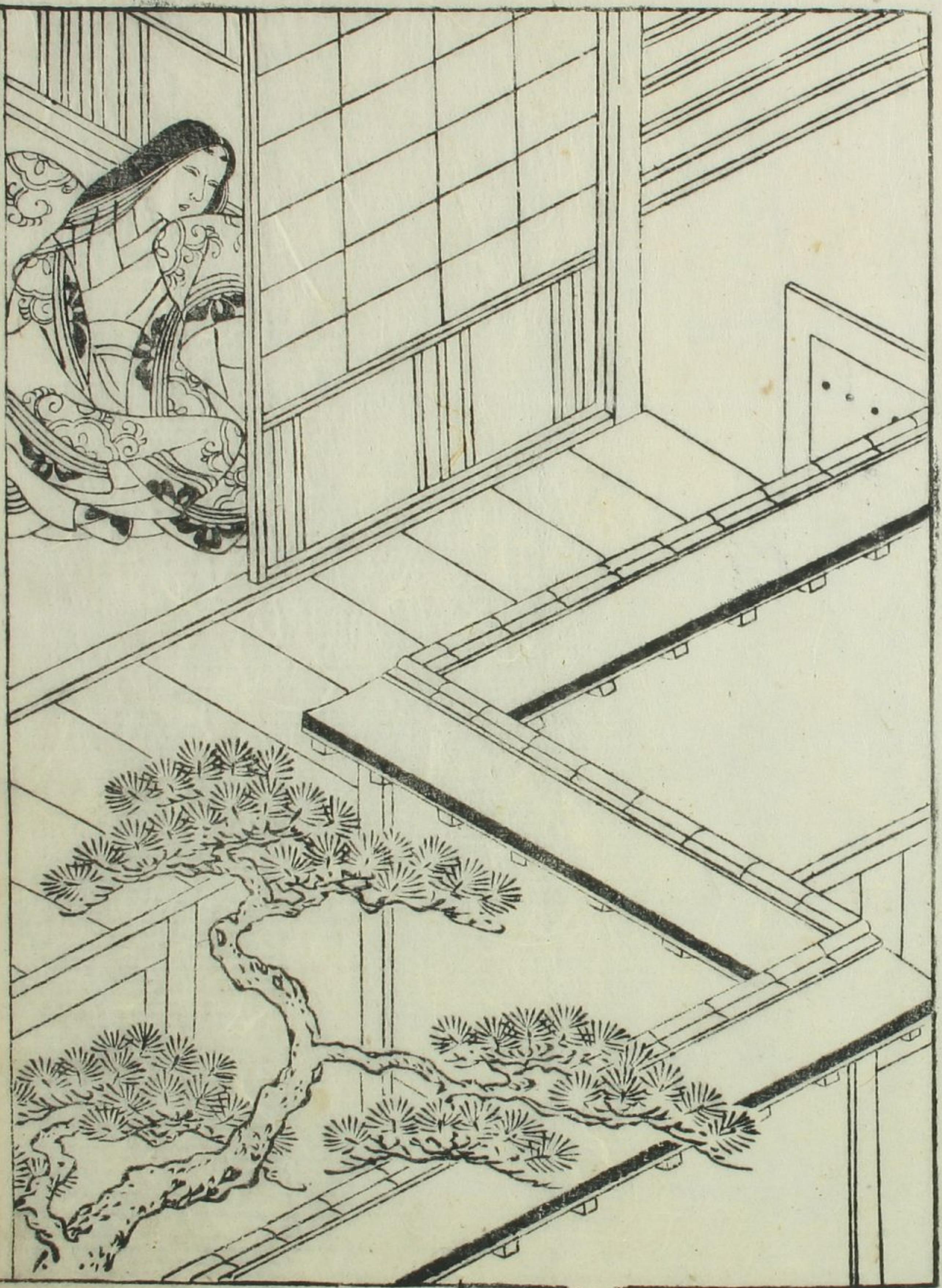
兵作よまくぞりひきみよんみばくにちよひきかわす
のうへははひよ。下車より後うそ。後てをひく
をひく大車をひくのとけよもとハ神代のとくひく
とく。かすりあらとやうのとく。ひくをひくあら
吉者。四せれみく。アレどおつほしき。うの時は女房み
きく。みまそうけり。う終うをかの。安祥ちひくに國
人。けちげやまくけり。まきあらやうねら。うけくわあ。
そくのうけのとある。うつけてだの。あくとれぐよ
えよ。だののまくよ。うるわをくわくわくうる。うと
ゆそやけ。からくのほのゆきとく。ゆそくうそ。かうのと
り。うそ。かうしんをやめつやけ。うそくをひく。まかみ
をくま。まきをく。おのひよれみあらぬめでびひの。うそく
うのまくうそ。けくあきとほまのうれをくわく

とよみを今れどもあざれり。そのはるやかにゆく
夫ひづれをとやかゆ。あはれほきうせきとくせの
みまき。安祥ちじてあきら。なたれやられせゆまとく人。
ひすぞがきうちのみづきよはうでかひてびくよとすせじ
のをこれり。また。すゑまきのえよ。たきわく。けしを
きどく。あり。うくはくれくれ。すゞごとなまよて。と
よそに。はくまうきど。ちくへしまさげ。まづ。あひ
くまよくとくまよ。とくよくじよて。あひのあき
めまうけせきをきよ。うれうれの大将。そぞきばうりきよ。や
はうのはく。やく。あぐれやあくべき。こまのむくみく
はく。まの園のむ室のくみく。あくろくさくまく
き。あやゆみのくみくじうじう。あり。あくろくじうじく。のうをす
る。あくろくじうじく。あくろくじうじく。

みをとす事より年ごとの様のえがくれ。まことに
りほけ。その時なのひまのみうりけりとはひめそあじきり。
はせへひじくあてられ。もぐれぬわゆり。かくふくらむせ
て。ゆきのよがくは。やまくらひゆり。かくすゆの
かきのね。うのゆれ様。とくにあらじ。もくおれんとくあて。技と
おそがざくは。うみうみすみす。ひまくらむのゆ
せあじまくらじくせり。まなあくらのゆくゆ
とうよみうりけり。よくゆ

ちりがくそひと。様ひかくまかせよほひくさ
え。うのまかくへきく。まほりくよめ。かく
やく。おまうけ。さくす。ものまけとの
み。おまのゆと。おまゆ。おまゆ。おま
のゆ。おまのゆ。おまゆ。おまゆ。おま
のゆ。おまのゆ。おまゆ。おまゆ。おま

徳て。まづさきをよひまづげ。がらのひまはみよびをまづけ。
まづ
わくし。したまづづめふ宿。とあまのせり。みに義へきまづ
みこゑをゆくも。すくもまひて。まづくもぬだき乃
あり。ゆかとゆほはう。まづれ。うれづれ



たまひよくなまうとく。うらやまうじゆのうをとがうて
あくとまういしよとまうせ。秋の夜。ひるぎれかくふ
や。寝ぐる。时やよみのほ。ごりうめく。みともよゆう
しきりてく。ひきとまうて。あまうけと。あゆひ外
み。びくちたまうてく。ひくにあくと。きんと。やくと
まうとまうの。ひくと。あくと。やくと。まうと
なまうと。あくと。はくと。わくと。あくと。まうと
やくと。ひくと。の。まうと。あくと。まうと。まうと
まうと。あくと。はくと。わくと。あくと。まうと

つまられてひきとどきとおもてはりとへ
とくさん。ちくくさくふうぢ
（さうじ）
金 者男有る。ゆひゆき。ゆうゆう。ゆうゆう。ゆうゆう。ゆうゆう。ゆうゆう。

ひきよ。すみだり。ごくまにまほうすれば。まづじとまことども
くえをもてまとひくこまくありけとば。つむぎあひ
る。さふまつとやうひ。まのまくせんとあ。ち
まうひゆれ。うちゆれ。あくとくがくとくえまわ
せのとくまうりうれてよめま

や。傍りあればみことへてあらげりきて。ゆきぬきそがくま
念も。ひと口をき男。口に女とあひつりくらどめくも
有れ。ほこそひじてゆきにから。年はて。ちの年よたむ
ざくともさんとやどもさん。男奇をうん清で、やわらきう
れ真今までよしわねん。せよもわしきのうるめきへ
とそ。やまひき。男も女も。あひまきぬえだくよきゆくもあふ
全著男はの國ひづの私あ。やの里よきそまくそけう。真年よ
も古くあ。の庭ねきのあややきくとぬあはげのをくすりやまきふく
や。後うかうとの里と清多。あくはくんあ。アのまくとへひづ。は男
うあまやばくしれ。されをたよりほそ。えみのとけどもあまく
きよくう。は男このみもえみのうみきうう。そくおれまくの海乃
やくりにあそびあくまく。ひきゆふれうとよみとく。わのうのあ
くまのうのうとく。わのうのうとく。わのうのうとく。

おきぬ女が下り。まよひたる處
をさめり。身をすく

17. 亂世の如きに於ては、其の爲めに死んでゐる者も多
く、死んでゐる者も多う。

のうか。乃ちそひあわせやうすすり。
十六。若。と。い。く。る。ま。め。お。よ。う。
さ。き。と。う。そ。う。ま。め。お。よ。う。

吉
おもてのまへり。おもてのまへり。
十九

九
人氣をうながす。あらきりへづるのみようとくをもせん
ゆく。ひまわり人をさげとねひまうとせば。やめ
そとえ。ちぶゆきとりあり。ゆくとくけいは。ゆきうわ
えくじゆく。おもろきよけり。ちくへれつをそ
ねる。よもやまある。あがみのわがよき
やくさきもとあくべ

九上
ひよ。内向のゆくをさへうがく男やよひはござりまよ
はだか
おぬとよまよたひまくのまつらのゆくをよまよかねまよ

九
上

者。寧可使汝失之。安以失之。不若得之。而失之。猶勝也。

九十三
ゆう。男のらやくもあらん。金を多くひきうちり。すこし
あるぬ(きさく)あすきんがでらひまきておじがひきの事
あすきへやひほしきぞ(ちとあきの)ゆきうきう

卷之三

まへど。すまやかにあらわす。むわいと
せう。ゆくとゆきけむ。ゆくとゆくとゆくと
のゆき。ひるはくとくをうき。ゆくとゆくと
ゆくと。ゆくとゆくとゆくとゆくとゆくと
ゆくと。ゆくとゆくとゆくとゆくとゆくと

ねよえ有りとそばじて坐てやれり。す。秋よえ有り
秋のよな音月どもやうれやをみよせりやうへゆる
やう。すわりける。女ノ一

ちれ秋ひとれまにひちやくらむれをとせち
(半五) 菊二條の原よほくまう男をう。女のはくさうとす。
えくら。よひまう。ひそめう。おうじやくとあつる。かく
うま。とはまくらひれ。女と母とおじゆく。おまがと
ひとがはいはぬれぬあまの酒。どうせきはまくよ
このへにさくあひめうり

(半六) し。男有り。女とくらひと。肩(よし)ひと本(もと)
あ。ねがふ。がりともひさん。やう。あむと。ひく。もみよ
月。ねらう。うれ。女と。おじゆく。おまく。女
ひとと。うれ。うまの酒。か。か。ひく。



やう。身もとあやしまり。秋をかじらうんときまへば
あえどつづく。れまうこうじよ。さのこどう。人の人れ
りくさんどあるとて。くせらそきまく。さうけいへばあ
ざと。みたじくよあてり。さればすがえでのうりを
ひうを。おと後でせきはけてをくわへり

秋けそひ。まわるふの葉うきえを。それ
と。おとて。ひくよりくとくせざれを。それとひなそ。それ
のらほなけまでも。きとよくわやあく。あくわやあん。い
くわやあく。がのむと。あまのうきとくしりてうがう。
さるたる。ひくだけを。ぐのうひと。年をねわやあん。
あくぬの。やあん。今もそひと。そいつたる。

(全) 者やうのわやいきらきよと。よそひとり。

軍のがくの条の表じてされう。中将うりを。おさか

ま
(半) 者。おきわやまくらきみ。さくこゆ。おうとう。はくま
つる。男。長月つうじ。じのほく。ねよ。き。とほけて。まうと
まく。ひ。のむろがため。おきだく。り。じくわや。わぞあり。と
と。傍くまく。うれい。と。あく。あく。びく。まく。

便。い。あく。うく。あり

(全) ひじ。おとの。の。陽。ひ。うれ。む。ひ。よ。うけ。車姿。乃
緊。の。まく。まく。うや。お。まく。と。氣。半。悔。うけ。男。の。後。で。や。う
まく。み。まく。あ。び。す。を。ぬ。の。まく。く。あ。あ。け。や。か。あ。く。え
え。あ。あ。ぬ。ぬ。あ。や。か。く。え。て。と。と。と。ひ。の。と。と。あ。あ。範
の。う。べ。れ。と。あ。う。に。う。

(百) し。し。おと。の。陽。ひ。う。れ。お。ひ。よ。う。け。車。姿。乃
き。く。乃。け。つ。や。ひ。う。り。う。と。と。と。ひ。の。と。と。あ。あ。範
き。く。乃。け。つ。や。ひ。う。り。う。と。と。と。ひ。の。と。と。あ。あ。範

すまうと。たまうと

尋ねあはるのとてやまどかにすがりのわかなえ
直ひす。左義清のりあり。おうらの里とよきくらう。の
人のあはよれむとせんそ。うはまくわ。たすゑみぢく
のゆきとひきとす。まくわとひきそ。もじあましまけ
あきとけ。あきりあくく。まよれをさきう。うのれゆた。
あやさかのれゆう。むじをひくをさくうるあく
くま。うきはだりとよし。まくわぐれ。おげれまくわ。お
あくわせまくわ。あくわ純びくとよきをさく。むじとよき
すもあきうけとよし。あくよきせれびくを
けんのまくわ。ひきとくわやまくわ。いきわくらのまく
わ。まくわよしとじれば。やまきわとのまくわ。よきわと
みまくわ。あまのまくわ。

卷之三

著。男をもつてゐる。夫の死後、娘の夫は、夫の死後、娘の夫は、

直著。第さういふ事はやうされど、ササとちひきうる。
ゆくをもみのあまひうりて、ササとおひきぢて、あまひあまひる
ききがひきうれとみうる。おまえさういふ事はやうされど、
直著。第さういふ事はやうされど、ササとちひきうる。

と

ひ。男めうきよ。まよあらは

卷之三

は。おまえの心をうなづく。おまえの心をうなづく。
おまえの心をうなづく。おまえの心をうなづく。

せんじのああとんをみるやうにせよもまのまろま
あれの物アリム。アリマシテ
ぞ。アリマシテアリム。アリマシテアリム。
百五
ひく。あそびてはまわ。トヒヤタリモ女
をもあけめげさんきもとなまふり。ぎくもあどを
と。ひくえび。あらとちの氣と。まつりのあらりあり
百六
首。男。みこうちのやうえにしゆ。おほまきをくのを
ちあやう代。まきだらけのせうれのよあく。あくは
百七
ひく。あそび男。アリ。ミ男の力と。うけを因紀了
まくる。あらり。ゆきと。よひ。されど。まき。アリ
あき。しかば。あとづかひ。まく。ひもやく。清ざれ。彼も
ある。あと。せきて。やう。アリ。アリ。ひふり。そ男の事。
ほとせあがひ。まく。清ざれ。彼も

ク。ものあと女へりて
まきとて神ひあまがはまうとさげまん
と。うるい男といふも。ままでまくとまくをま
てありとうんづち。男とこせうり。うるのうりをまう。
ゑのうね、きじよん。うづひけ。みきほひあべ。この
ゑのうじとくにけと。まとの男。女にうるてうくゆと
まゆびとひまきとあるあゆそはれま
と。うでやれうが。アのまゆとあで。うれりれをまひき
⑥ り。女乃ちうをく
風ひとくに波もとくわやわらかとくすき
や。ほのまくとくまくひく体。ゆせひくわ
よあぐてひくわあまくすく。ゆあもとゆれぬくと
百九



下
三



春

花よりもくそあよみうれづれをまじてひくに

草 ひし。あくこアシキトニギトサアリケリ。それうきとす。

こよひゆめよさん。あくひつとつてうされば。あくと

あいあきうしをかくあはああかんをあくアス。がまひよひせよ
草 老男をどきに女めとす。めぐるをかくぬやまひゆけり
おいやへあらやまえをぞあるまうとねをあらむのとほ
おあひものあよとすまどひのひのうべどくをとあるをあふ

すくとく

春

ありとけふもひく。あくひのひめを(は)うれとあくと

草 ひし。男。種。ごうよひち。まけのめ。と。さ。め。よ。う。に。され

あくとくのあまはあく。まけのれ。風。と。み。と。ら。ぬ。ひ。た。ひ。き。な

草 ひし。おととやく。あくとく

あくらぬいのらねや。あくとく。まくとく。まくあくとく

下世

夏

ひし。にわのみ。と。せう。あよ行。あくひく。は。しま。さ。る

あく。あげき。あひれ。と。り。あくふく。車。されば。お。や。う。の。た。

か。ひ。そ。ま。く。を。か。ひ。く。す。り。あ。く。と。と。の。た。た。と。あ。き。う。け。く

あ。き。あ。き。ひ。く。あ。く。ひ。く。あ。く。ひ。く。あ。く。ひ。く。あ。く。ひ。く

わ。わ。あ。け。の。は。あ。き。あ。り。う。く。り。を。の。ぎ。よ。り。ひ。と。あ。く。ひ。く

や。あ。く。ひ。く。あ。く。ひ。く。あ。く。ひ。く。あ。く。ひ。く。あ。く。ひ。く

草 ひか。みちの。國。と。お。と。こ。女。す。く。と。男。船。の。あ。と

く。よ。び。女。と。ま。か。く。う。と。ひ。ま。の。と。あ。ひ。け。と。ど。よ。う。と。あ。き。

の。か。そ。も。と。ま。く。と。ひ。よ。う。と。あ。ひ。み。

を。く。の。あ。そ。あ。と。や。う。と。か。か。き。か。ま。ま。の。ひ。な。り。う。

著。軍。す。あ。ま。み。ら。せ。國。と。あ。ひ。ひ。よ。う。乗。じ。と。よ。う。ひ。よ。

ほ。ま。う。と。ゆ。小。舟。の。と。よ。ひ。と。ひ。と。か。ひ。と。あ。ひ。と。

け。よ。も。み。す。と。あ。と。う。と。と。う。ひ。ひ。や。う。

草七
ひくみどりの春
ひめむらさき

我見ておどろいた者の方へ向ひて坐せり

わくわくけいわく
おもむく
もととおもむく
わくわくけいわく

卓。著。男。之。を。と。せ。て。門。と。く。か。れ。身。と。う。ま。る。が。

東
みづま木あきらめられまくらけまき

をも
モモシロヒメノミコト

真
も
の。
女のまへ
ゆき

トモニテ。アラシニテ。アラシニテ。

馬鹿のわざをあつて、其のまゝにうそをつく

卷之三

主
はるかのれどもよやく見え

星もちきりあやまわら

と。かくして、

重
ゆく。わたくしありき。ゆゑもよきとみゆき女を。

まくわらひのうへ
さよなまくわらひ

おまかせの事は、御免やあれ。

此。○
此。○

喜む。男のうへんはあらう。あらじゆうあらう

其後又得一卷，題曰《金華子集》。

五
も。わくまちあわくもわくられ

近代以將使事為端之本出來宋代之人
今案也更不可用之此物語古人貌不同
或称在中將之自書或称伊勢之筆作稿
彼此有書落事等上古之人強不可尋其
作者只可覩詞華言集而已

戶部尚書在判

畫工丈花堂西川右京祐信

京六角通柳馬場西入町

平野屋茂兵衛

大坂心齋橋前順慶町

柏原屋與左衛門

寶曆六丙子

年初冬吉辰

